

平成二十二年 十月 九日印刷
 〒 一一一 ― 〇〇二二
 台東区清川一―八―一一
 光 照 院 発 行
 TEL 〇三(三八七二)八四八七

よりた院照光

道 詠

阿弥陀佛に

そむる心の
色にいでば

秋の梢の

たぐひならまし

法然上人

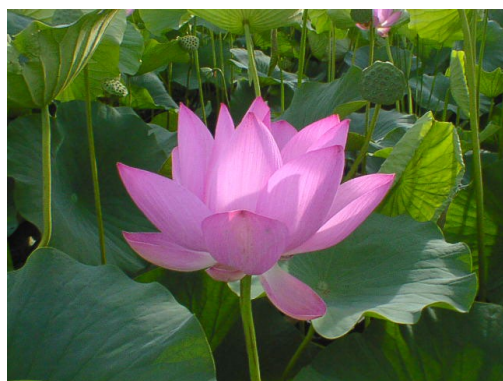
小罪をも犯さじと思つべし

◆仏像盗難事件

近年、仏像鑑賞がブームとなり、興福寺の阿修羅像に代表される美しい仏像を一目見ようと、日本各地のお寺や博物館に連日人だかりができていたという話を耳にします。最初は単なる仏像鑑賞であっても、それをきっかけとして仏さまを拝むまことの心が養われ、みずから仏さまの教えに触れるようになっていただければ良いのですが…。どうもそのような良い方向にばかり行かないのが人間のようなのです。

ブームに乗じて、国宝や重要文化財となっている仏像の他、路上の石仏まで盗難に遭う事件が頻繁に起こるようになりました。ま

光照院住職 吉 水 裕 光



池のなかに美しく咲く蓮の花

ことに悲しいことです。さらに驚くことに、その犯人の中には、本来仏の道を説く側であるお寺の元住職までいるといえます。本当に世も末だと感じてしまいます。

◆法然上人の教え

法然上人がお説きになった浄土宗の教えは、ただ「助け給え、

南無阿弥陀仏」と阿弥陀さまのお名前さえ呼べば、どんな大悪人であつても、阿弥陀さまのご本願のお力で救われるというものであります。生きている間、誰しも大なり小なり間違えを犯したり、他人を傷つけてしまったりすることはあります。そんなわたしたちのことを阿弥陀さまはよくご存じだからこそ、まずわたしの国に生まれ変わり、その安楽な中で修行をまっとうしなさいとおっしゃってくださるのです。

◆悪人も救われるなら

ところが、このようなお話をいたしますと、「では、生前にどんな悪いことをしてもいいつてことなんだな」「この世で好き放題悪さをして、最後に一回お念仏すればこんな楽なことはない」とおっしゃる方がおります。このよう

な受取りは、大きな間違いであり、強く法然上人が戒められたことです。

なぜならば、「悪いことはせず、つとめて善いことを行おう」というのは、お釈迦さまをはじめ、すべての仏さまが願うところであります。どうして阿弥陀さまだけが、「悪いことをしてもいいよ」などとおっしゃるでしょうか。

阿弥陀さまも、わたしたちが悪事を離れ、善いことを心がけることを望んでいらつしやいます。しかしながら、環境によって、またはさまざまな悪縁によって、それを守る事ができないわたしたちのことを思うが故に、阿弥陀さまは過分の恩情からどんな悪事を犯した者でも救うぞと仰せになるのです。どんなに悪事を重ねるわが子であっても、母親はその

子を見捨てないように、阿弥陀さまも罪を重ねる者を見て嘆きながらも捨ておかenいのです。

◆小罪をも犯さじと思うべし

法然上人は「どんなに罪深くとも、お念仏をお称えすれば必ずお浄土に生れさせていただけるのだと信じ、そのような救いとお護りをいただけることを感謝して、どんなに小さな罪であっても犯すことのないように心がけなさい」と仰せられています。

いくら阿弥陀さまがわたしたちを見捨てないからといって、好き放題に悪事を重ねて良いわけではありません。やはり、少しでも阿弥陀さまが喜んでくださるような行いを心がけ、小罪といえども阿弥陀さまが悲しまれるような行いはさけて毎日を過ごすことが、仏教徒としての大切な姿

勢でありましょう。

十一月には、日頃の行いをご本尊さまの前で懺悔し、たくさんのお念仏を申して、その功德をご先祖さまに回向する十夜法要がございます。さわやかな秋の日に、阿弥陀さまと向かい合い、心静かにお念仏を申す一時を過ごしていただければ幸いです。 合掌

《社会慈業委員会

通称 ひとさじの会 発足》

昨今、ネットカフェ難民、ワーキングプア、生活保護受給者数の増加など、貧困問題に関する記事を見ない日はありません。

光照院のある浅草山谷地域では、昔から日雇い労働者が多く、ホームレス状態の人も少なくありませんでした。それだけに、いままであまり気に留めることもありませんでしたが、今や山谷地域だけではなく、都内の随所に多くの若いホームレス状態の人がみられるようになりました。

かつては、ホームレス状態に陥るなんて、その人がしっかり働かないからだといわれてきました

が、雇用情勢の変化から、三十才代でも五人中三人が正規の職にあぶれてしまうという現実があります。飽食の時代といわれる一方で、若い人が餓死している世の中は、とても健全な社会とは思えません。

そんな貧困の現状を目の当たりにして、浄土宗の若手僧侶二十名が今年「社会慈業委員会(通称ひとさじの会)」を発足させ、一日何も食べないで過ごしている方におにぎりをお渡ししたり、生活保護受給のサポートや医療相談を行っている団体へ橋渡しをする活動をはじめました。当山の副住職もその一員として活動をしています。

彼らの会の通称である「ひとさじの会」とは、空腹の人へほんの一匙(ひとさじ)の重湯(おもゆ)を差し上げるような、本当にわずかな支援しかできないかもしれないけれど、それでもその人に寄り添いたいという想いから名づけたのだそうです。

現在は主に地域社会やNPO団体と協働して社会的弱者の支援活動を行っており、支援活動を通じて、共にさまざまな人とふれあい、学びあい、助けあい、慈しみに満ちあふれた社会の形成を

考えていきたいとのことでした。

まだ発足して間もない会で、どこまで社会的弱者の支援に役立つことができるかわかりません。ただ、真剣に他者のために寄り添いたいと活動を行っている青年僧たちのことを、光照院の檀信徒のみなさまからも応援いただければ有難く存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。合掌

「ひとさじの会ホームページ」

<http://hitosaji.jp>

《法然上人八百周年大遠忌

参拝旅行日決定》

法然上人の八百回忌にあたる平成二十三年の四月一日～三日に、参拝旅行会を予定しております。予算は八万円です。

浄土宗総本山知恩院で五十年に一度行われる荘厳な法要に、みなさまと共に参拝します。この他、法然上人の念持仏を安置する西福寺など、こうした機会であればなかなかうかがうことのできないお寺にも参ります。また、一泊は温泉旅館にも宿泊します。日常の生活を離れ、法然上人の御足の跡を共にたどることができれば幸いです。みなさま奮ってご参加下さいませ。

お申込、お問い合わせについて

は、どうぞ遠慮なくお寺にご連絡下さい。

《劇団前進座「法然と親鸞」

法然上人の八百回忌、親鸞聖人の七百五十回忌を記念して、劇団前進座による「法然と親鸞」というお芝居が、今年の十一月十五日～十二月三日に渋谷の青山劇場で公演されます。

光照院では、格安の特別鑑賞券をご用意しています。ご興味がございましたら、光照院へご連絡下さい。

A席 一〇〇〇円→七五〇円
B席 五〇〇〇円→三五〇円

《五重相伝会開筵のお知らせ》

浄土宗では、古くから檀信徒さまに向けて浄土宗の信仰の肝要をお伝えする法会が営まれています。明治期以降、これまで関東地域で営まれる機会は大変少なくなっております。

ところが、この度法然上人の八百周年大遠忌に合わせ、平成二十二年五月二日～五日の四日間、東京三ノ輪にある浄閑寺において開筵される運びとなりました。この法会に参加された方には、戒名に加えてお念仏者の証である「誉号」をお授けさせていただきます。

法会の詳細については、光照院お十夜会に資料を配布させていただきます。ご興味のある方は、ぜひ資料を御覧いただいてから光照院へご連絡下さい。

《お袈裟のお話》 副住職 岳彦

この間、あるお坊さんが「坊さんは偉くないけど、このお袈裟が偉いんだ」とおっしゃっているのを聞いて、なるほどなあと思ったことがあります。

お袈裟は、お釈迦さまご在世の時には、糞掃衣と呼ばれ、世間一般の人が誰もかえりみないような粗末な布きれをつぎ合わせたものでつくり、衣服に対する執着を離れさせたのがはじまりといわれています。

衣服に対する執着（こだわり）とは、どんなものか？「あの人の着ている服は〇〇というブランドだわ。いいわねえ」などと、他の人の服を羨ましく思うのももちろん執着。逆に「俺はいつも同じ服でかまわない」というのも執着でしょう。でも、もつとも強い執着は、お掃除でも何でも、いちいち着ている服が汚れはしまいか、濡れはしまいかと気にしながら行っていることにあると思うのです。

お釈迦さま在世の頃のお坊さんは、いつもお袈裟を身にまとうことで衣服の執着を離れ、自由闊達に自己の修行と他者への慈善に励まれました。

衣服にかまうことなく自在に他者のために働く姿は、当時の人々にとつて尊敬の対象とされたのでしよう。インドから中国へ仏教が伝わると、袈裟は衣服ではなく菩薩のように活躍するお坊さんの証として法衣の上に着用する装束となりました。現在の日本では、儀式においては金襴の袈裟が用いられるようになり、檀信徒の方には、仏教徒の証として輪袈裟が着用されるようになりました。

袈裟とは、なりふりかまわず他者のために働いてこられた過去の多くの仏教徒の象徴であり、わたしたちが真に受け取らなければならぬのは、袈裟の形ではなく、袈裟にこめられた心なのかもしれません。合掌

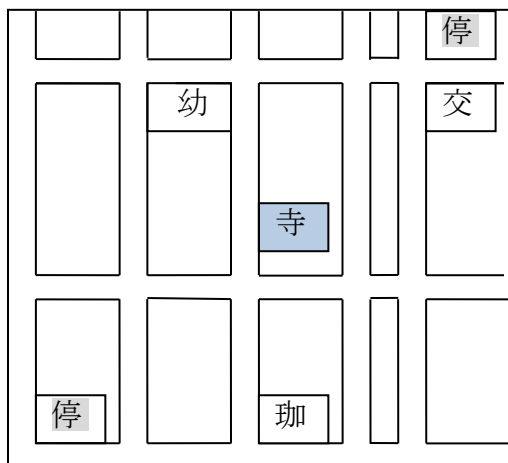
《住職の動向》

◆五月二九日山中家通夜 ●三〇日五重相伝会研修会 ●二六日～六月一日埼玉教区寺院巡錫 ◆六月二～四日知恩院出仕 ●五日浄土一洗会総会 ●七日童心会物故

者法要●八日仙台愚鈍院住職一周忌法要●九日大本山増上寺台下祝賀会●一二日じせん会会議●一四日光照院施餓鬼法要●一六〇二〇日神奈川教区寺院勸進●二三日知恩院内局会会議●二八日玉蓮院施餓鬼会◆七月二三日知恩院顧問会会議●六〇九日神奈川教区寺院勸進●一〇日勝運寺住職本葬●一一一五五五棚経・お盆法要●一七日知恩院顧問会会議●二二日知恩院内局会会議●二九日知恩院臨時顧問会會議●二九日知恩院新和順会館地鎮式◆八月一〇一六日知恩院盆回向出仕●一七日静岡教区清水組寺院勸進●二二日浄土一洗会募財受納●二三日浄念寺住職本葬●二八日知恩院内局会會議◆九月一日知恩院企画委員会會議●五日大船観音街頭相談会●七日もやい一周忌法要●九一四日長野教区寺院勸進●一五一日知恩院当直●一七日知恩院記念品相談会●二〇二四日秋彼岸会●二五〇日知恩院遠忌局會議●二六日知恩院彼岸結願法要役席●二七日おてつぎ奉仕団結団式・表彰式、超世会●二八日知恩院内局会

《光照院へのアクセスについて》

これまで「浅草駅」から光照院そばの「今戸老人福祉会館前」まで運行していた台東区循環バス「北めぐりん」のバス停が移転しました。今後このバスをご利用になる場合は、九番「清川一丁目」停留所で降車ください。「甲42南千住ゆき」バスご利用の場合は、これまで通り「東浅草」停留所で降車ください。ちなみに、地図を示せば以下の通りです。図の上にある「停」が東浅草停留所、図の下にある「停」が清川一丁目停留所です。



「お知らせ」

《光照院十夜会法要》

日 程 十一月八日(日)

御齋(昼食) 一二時三〇分から

講 演 一二時三〇分から

聖マリアンナ医科大学病院
感染管理専任看護師

高 崎 晴 子 先生

「インフルエンザのお話」

法 要 一三時一五分

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

御仏具料寄進

為 常明院貞誉寿称大姉

十三回忌 一金壹拾萬圓

為 燈岳院詠誉教準至覚居士

十七回忌 一金壹拾萬圓

為 清薫院峯誉妙安宗恩大師

五十回忌 一金五拾萬圓

施主林 茂代殿

施主久保田純代殿・將弘殿

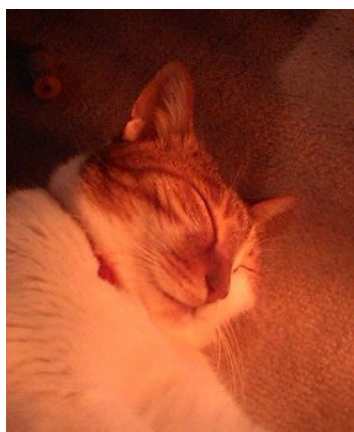
《光照院年中行事》案内

十一月八日(日)

お十夜・放生会

どうぞみなさまお誘い合わせの上、ご参詣ください。阿弥陀さまや極樂の菩薩とられたご先祖さまたちのお見守りを受けて、健やかな毎日を送らせていただけるようお願いいたします。

合掌



コタツが欲しい季節にや